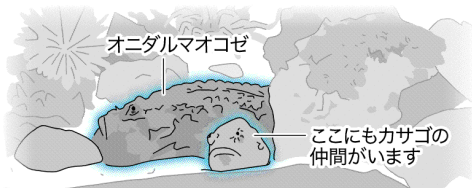


オニダルマオコゼの水
槽。どこにいるか分か
りますか？



岩のような見た目をしているオニダルマオコゼ

オニダルマオコゼ

学名 *Synanceia verrucosa*

- 分類 カサゴ目フサカサゴ科
- 大きさ 体長約40cm
- 分布 インド洋・太平洋西部の熱帯域に分布し、サンゴ礁や岩礁帯などの浅い海に生息する。日本近海では小笠原諸島や奄美大島、沖縄周辺で見ることができる
- 食べ物 小魚や甲殻類
- 特徴 ゴツゴツとした体を持ち、岩などに擬態しながら餌の魚などを待ちかまえて、大きな口で一気に丸飲みする。背びれのとげに非常に強い毒があり、気づかずに踏んでしまったダイバーが刺される事故が起きている

岩のように動かない

漢字で書くところ「鬼達磨口はどこにあるのか、全身は虎魚」。なんとも強そうなおもしろな形をしているのかさいかめしい名前です。ゴツゴツとした見た目からこんな名前がついたのかもしれない。じつとしていると、目や（ストーンフィッシュ、石の魚）。まさにどつしりとした

彼れの特微があります。背びれのとげに猛毒があること。毒の強さは、ハブの30〜80倍ともいわれています。刺されると激痛が走るだけではない

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

岩のようです。朝も夜もじつと砂に埋もれています。しかし、目の前に餌が現れると思ってもよらない速さで口を開け、丸飲みします。

他にも特徴があります。背

水槽にいるオニダルマオコ

ゼを見ていると、時折ゆらゆらと泳いで場所を変えることはありますが、ほほいつも同じところにいます。餌を捕らえるのに、速く泳ぐのではなく、岩のようにじつと待つことで生きながらえてきます。外敵から襲われないために、猛毒も手に入れたのでしよう。

生き物には生きるためのさまざまな戦略があります。岩に似せた体と猛毒のあるとげを戦略として選んだオニダルマオコゼ。ぜひじっくり見てみませんか。（展示課海獣展示係主査・大塚美加）